

2023年7月13日
公益財団法人イオン環境財団

千葉市と公益財団法人イオン環境財団との 千葉市動物公園における生物多様性に関する連携協定について

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田元也 イオン株式会社 取締役代表執行役会長 以下 当財団）は、千葉市（市長 神谷俊一）と、千葉市動物公園（以下 同園）における生物多様性に関する連携協定を締結いたします。

1985年に開園した同園は、長年、動物園の社会的役割とする「種の保存」「調査研究」「教育普及」「レクリエーション」に取り組み、環境の保全や種の保存活動など動物園の役割を果たすことを通じて、自然や生命の大切さを発信し、伝えていく取り組みを推進しています。現在、約34ヘクタールの公園内に109種577点の（2023年6月末現在）動物を飼育しています。

当財団は、1990年の設立以来、生物多様性の課題に関し、各地で地域の皆さまや大学研究機関等と連携し、植樹や助成、環境教育等に取り組んでいます。野生動物保護を中心とした施策として、これまでカンボジアのポンタマウ野生生物保護センターなどで、荒廃した森林再生、生物多様性の保全のための植樹を実施しています。また、2009年には生物多様性の保全や持続可能な利活用、それらの普及・啓発・共有の推進を目的とした「イオン生物多様性みどり賞」を創設し、顕著な功績が認められる国内外の個人・団体を顕彰しています。

同園とはこれまで、生物多様性をベースに、子どもの起業家精神を育む機会創出を目的とする「ちばアントレプレナーシップコンソーシアム」の推進や、同園内の森林整備ボランティア活動等の事業に取り組んできました。

このたび、両者は、持続可能な社会の実現のために、生物多様性の保全がより不可欠であるとの認識のもと、同園に地域の皆さまをはじめとする多様な人々が集い、生物多様性について考え、行動することを目的として、4事項を柱に連携協定を締結いたします。

両者は今後も広く連携し、生物多様性の保全のため様々な環境活動に積極的に取り組んでまいります。

連携事項（3ヵ年計画）

1. 環境、生物等の調査・保全に関する事項
2. 植樹に関する事項
3. 環境教育活動に関する事項
4. ボランティア活動に関する事項

協定に基づく本年度の取り組み計画

1. 同園内大池の再生に向けた生態系現況調査と整備保全計画の策定
2. 同園内樹林地の再生
・正門前桜並木におけるサクラの植樹
3. 環境教育に関する講演会等の開催、
4. 同園内清掃ボランティア活動の実施等

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株式会社名誉会長相談役）により、日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として、1990年に設立されました。以来、多様なステークホルダーの皆さまとともに「植樹」「環境活動助成」「環境教育」「パートナーシップ」の4つの事業を中心に活動に取り組んでいます。現在は、持続可能な地域の実現を目的に、新たな里山づくりにも取り組んでいます。

【植樹活動】

国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、中国万里の長城などアジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。1991年からのイオン全体の植樹の累計本数は、1,255万本をこえています。（2023年2月末時点）

【千葉県における森づくり】

■浦安市植樹（2013年～2015年）

東日本大震災時の液状化で噴出した土砂の処理が深刻な課題となっていたことを受け、この土砂を土壌の盛土として活用する植樹活動を実施しました。2013年から2015年の3年間の活動を通じ2,100名のボランティアの皆さまと合計18,000本を植えました。



浦安市（2015年）

■千葉市植樹（2016年～2018年）

2016年に千葉市富田都市農業交流センターで、第1回「千葉市植樹」を実施しました。地域ボランティアの皆さまやイオンチアーズクラブの子どもたち1,200名とクヌギ、コナラ、ヤマザクラなどの広葉樹8,000本を植えました。



千葉市 富田都市農業交流センター

第2回は2017年、第3回は2018年に泉自然公園（千葉市若葉区）で、野鳥の森の再生を目指して植樹を実施。2年間で1,600名のボランティアの皆さまと合計17,000本を植えました。



千葉市 泉自然公園（2018年）

■九十九里浜植樹（2019年～2022年）

松くい虫被害や湿地化により疎林化が進んだうえに、また東日本大震災では津波被害にも遭った千葉県九十九里浜地区の海岸県有保安林において、災害にも強い海岸防災林の再生を目指して、2019年千葉県と「法人の森事業協定」を締結しました。2019年から2021年までに970名のボランティアの皆さまと15,000本の植樹を実施。最終年となる2022年はクロマツ、マサキ、トベラ等の6種類の苗木、合計2,000本をしました。



九十九里浜（2019年）

■君津市植樹（2020年～

森林の再生を目指し、2020年12月に林野庁国民参加の森づくり活動における「モデルプロジェクトの森」として、林野庁関東森林管理局と協定、君津市と覚書を締結しました。協定に基づき「君津イオンの森づくり」を推進し、2020年から2021年までに、のべ410名のボランティアの皆さまとともに、君津市の花であるミツバツツジをはじめとする地域の自生種3,440本の植樹。3回目となる2022年は570名のボランティアの皆さまとミツバツツジ、ヤマザクラ、イロハモミジ等12種類、3,000本の植樹を実施しました。



君津市（2019年） ← ←